

## 平成 29 年度高山工業高等学校 第 3 回学校活性化連絡協議会 議事要旨

日 時	平成 30 年 1 月 23 日 (火) 13:30~15:00
場 所	高山工業高校 会議室
出席者 (敬称略、 委員名は 50 音順)	<p>(委 員)</p> <p>石原 嘉和 高山市立日枝中学校 校長  籠場 和司 高山市立花里小学校 校長  川上 哲也 県議会議員  北村 齊 高山商工会議所会頭 (日進木工(株) 代表取締役)  國島 芳明 高山市長  小屋垣内浩之 高山工業高等学校育友会会長  高殿 尚 県議会議員  中野谷 康司 高山市教育委員会 教育長</p> <p>(高校側)</p> <p>藤田 正昭 校長  村田 和宏 教頭  北原 和弘 事務長  岩島 義則 教務主任  上垣内 忠 生徒指導主事  門前 雅人 進路指導主事  室谷 伸治 工業部長・建築インテリア科主任  新家 邦男 電気科主任  川上 登 電子機械科主任  境 信之 事務局・機械科主任</p> <p>(県教育委員会)</p> <p>石原 康秀 教育総務課 課長補佐  日比 学 教育総務課 管理主事</p>
議事要旨	<p>1 サテライトキャンパスにおける商品販売について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サテライトキャンパスでの生徒作品の売り上げを、県の収入に入れることについての改善できたか。生徒のやる気を出すには、アイデアや商品を買って利益があがるのが大切である。企業では利益を出すことが重要である。教育的な効果を考え実践できるよう対応してほしい。また、今の制度では企業からの支援がしにくい。</li> </ul> <p>2 地域連携活動による活力ある高校づくりについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・工業高校の地域密着連携活動の取組は効果を出しているのだから、これからも続けてほしい。この成果が、どこまで届いているのかも大切である。広く広報し活動を深めてほしい。</li> <li>・活動による入学前、在学中、卒業後の生徒の姿を明確にし、中長期的ビジョンを作り、先を見て考えプランを推進・改善していくことが大切である。</li> <li>・最近、地域連携活動が点ではなく線となって継続的に実施されている。また、活動している生徒は、工業高校で学んだことについてしっかりと話し、丁寧に子どもたちを指導しており、保護者が見ているところで活躍している。この取組を地道に継続して行ってほしい。成果はそのうちに現れてくる。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・花里小学校との交流を通じて実際に体験した6年生は高校生に対してよい印象を持った。9割の児童が、もう一度行ってみたいと言っていた。保護者の参加が少なかったのでPTAにも働きかけたい。小学校の先生も職業高校についてもっと理解する必要がある。</li> </ul> <p>3 高山市への提言について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高山市は観光、木工、農業に力を入れている。特に人口減少と高齢化に伴い木工や農業の現場の人材は減少している。これからは、生産性の高い技術者を育成する取り組みが必要である。</li> </ul> <p>4 中学生の体験学習について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学生は減少し、飛騨管内から出る生徒も多い。中学生は地域の高校でどのような学びをするのか知らない生徒が多い。中学2年生での職場体験学習のように、「高校を知る体験学習」というような方策を考えていき、飛騨地域に残る生徒を増やしたい。</li> <li>・中学生は、地元企業の工場見学をしていない。小学校は見学を実施しているので、ぜひ、中学校でも見学してほしい。</li> </ul> <p>5 県外募集について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・普通科高校における全県一区の募集の影響は、ほとんどみられない。</li> <li>・県外募集は、女子生徒を受入れられる環境の整備が必要である。同窓会や後援会にも協力を依頼し、ホームステイや他施設で空いている寮を活用するなどの検討をしてほしい。</li> </ul>
--	---